

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|----------------------|------------|----------|
| 事業所番号 | 1290200029 | | |
| 法人名 | 医療法人社団 千葉医心会 | | |
| 事業所名 | グループホームよされ | | |
| 所在地 | 千葉県千葉市花見川区宇那谷町123-13 | | |
| 自己評価作成日 | 令和5年3月3日 | 評価結果市町村受理日 | 令和5年8月4日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/ |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|-----------------------|--|--|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと | | |
| 所在地 | 千葉県千葉市稲毛区園生町1107-7 | | |
| 訪問調査日 | 令和5年3月17日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当施設の理念である「明るく家庭的な雰囲気をめざす」をモットーに、常にご利用者様の立場に立って自立支援を目指し、一日でも長くその人らしい生活ができるよう支援しています。またグループホームが第2の我が家になれる様に努めています。毎日の生活の中で健康管理を行い、医師や看護師と連携を取りご利用者様が安心して生活ができるように努めています。またこのコロナ禍で感染対策を実施し、日々の生活や行事やレクリエーションなどを工夫して実施し、体操や散歩などで日々の体力維持に努めています。職員と入居者と共同で施設の庭で花壇を作りや花作りを行い千葉市花壇コンクールで受賞しました。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「明るく家庭的な雰囲気をめざす」を理念として掲げ、職員が連携して利用者の思いを叶えるための声掛けや、寄り添う姿が見られた。利用者に医療的処置が必要な状況が発生した場合、医療連携ですぐ受診ができ、くも膜下出血の早期発見で治癒し、退院後ホームで生活できている事例がある。自立支援、機能維持のための取り組みとして、日常のレクリエーションで手指を使うちぎり絵、塗り絵を取り入れ、利用者も自主的におこなっていた。また洗濯物干し、洗濯物たたみに積極的に参加する様子が見られ、自立支援につながっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | | 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | |
|----|--|-----------------------|---|----|---|-----------------------|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ | 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ | 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ | 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ | 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) | ○ | 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | | | |

自己評価および外部評価結果

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|--|--|--|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 グループホームよされ | 明るく家庭的な雰囲気を目指すという運営理念のもとに、研修・学習会を実施しています。施設内やパンフレットへの掲示板掲載。日常生活での自立支援、行事等に生かされるように努めています。 | 各ユニットの入口に理念を掲示し、年度初めの全体会議で、理念「明るく家庭的な雰囲気を目指す」を伝えている。職員は日常の業務で利用者に寄り添い、家族のような支援に努めている。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 地元自治会へ法人会員として協力しています。コロナ禍で交流の活動は出来ない状態です。小学校の資源回収への協力や、防犯パトロールの腕章や帽子をかぶり散歩をしたり、地域の方々に挨拶をしています。 | 自治会に加入しているが、コロナ禍で交流の機会は少ない。地域の小学校の資源回収に段ボールや新聞を提供している。利用者は防犯パトロールの腕章、帽子を着用して散歩して地域住民と挨拶を交わすなどしている。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | コロナ禍で交流の活動が出来ない状態です。利用者と一緒に整備した事業所の前の花壇を地域の人に見てもらっています。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 実施できなかった。 | 今年度は、感染対策に労力を費やし、運営推進会議の開催が遅れている。 | 利用者家族、地域住民の参加で、書面開催、あるいは今後の状況により、対面開催ができるように準備を進めることを期待する。 |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 電話やFAX、メールでの連絡が主になっています。事故防止や感染症対策などで資料の提供を受けています。 | 運営上の相談などをして助言を得ている。感染予防対策用品の入手についても相談し、備品の提供を受けている。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 職員は十分に理解し利用者の安全を考え支援を行っています。学習会を実施したり、職員会議やユニット会議で身体拘束等適正化委員会を実施しています。身体拘束の廃止に向けて意見交換をしています。 | 身体的拘束等適正化のための指針を基に、委員会を3か月に1回開催し、身体拘束をおこなわない支援に努めている。年2回職員研修を実施して、事例検討で尊厳あるケアがおこなわれている事を確認している。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 虐待防止マニュアルに沿った対応を基本としています。日々の申し送り時に利用者の支援について話し合い、虐待の抑止に努めています。 | | |

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 管理者や職員は制度のあり方を知るよう努めています。成年後見制度を利用している利用者がおり、関係者との話し合いや利用者が活用できるよう支援しています。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 入居相談、申し込みの際には施設を見学して頂き案内して内容を説明しています。申込みの際には契約内容について丁寧に説明し理解して頂くよう努めています。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 家族へのお手紙や新聞、電話などで近況をお知らせしています。来所時や電話などでご要望をお聞きしています。頂いたご意見等については担当者や会議での話し合いに役立て改善に努めています。 | 毎月「よされ通信」と個別の状況を手紙で利用者家族に送っており、面会来訪時や電話での状況報告時に意見を聞いている。家族からの提案により寝具のシーツについて検討したこともある。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | スタッフが中心となり、行事、勉強会等を行い積極的に運営に参加しています。職員会議やユニット会議で話しあったり、アンケートや面談を通じスタッフの思いや意見などを聴取しています。 | 日常の業務中に気が付いたことを管理者に伝え、管理者は必要に応じて改善につなげたり、全体会議で検討している。現在は、職員が休憩するスペースの確保が課題である。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 管理者は定期的に代表者に職員の勤務状況や労働時間などを把握し報告しています。管理者が個人面談を行い、勤務条件や個人目標、本人の希望や要望聞き、働きやすい職場環境の整備に努めています。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 外部研修への参加や内部研修として学習会を行い各職員がテーマを決めて行っています。考える学習会が浸透してきており、他の職員に指導することが、何よりのトレーニングになっている。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 法人内の他の施設との会議での意見交換や千葉市のグループホーム連絡会での研修などに参加しています。 | | |

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | | 外部評価 | |
|----------------------------|-----|--|--|--|-------------------|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 | |
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 入居時に家族からの情報や本人からの要望等を聞き、少しでも早く安心して過ごして頂けるよう職員同志の情報の共有に努めています。また日々の利用者の要望や言動に対応しながら信頼される関係づくりに努めています。 | | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 家族も高齢になる中で、コロナ禍に伴い不安などを聞けるように、オンラインや窓越しでの面会を実施しています。利用者の近況など電話や手紙などで情報を共有しご家族の要望に応え、ケアの実践に繋がれるよう努めています。 | | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 入所の段階で、最優先する支援や課題を見極めるため、在宅でのケアマネとの情報の共有や、利用している施設や家庭訪問での面談を実施し、相談に応じながら、生活面、健康面、経済面等の問題を把握し、他の施設の相談員等との連携が取れるように努めています。 | | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 季節に合わせた施設の中の飾りつけを職員と利用者と共に作成したり、食事の配膳や洗濯物たたみ、掃除をする等、今までの生活で馴染んできた事を活かし家庭的な雰囲気の中で生活出来るよう支援しています。 | | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 電話や窓越しの面会、オンラインによる交流を支援し、安心してゆっくりと話し合えるよう努めています。以前の生活の様子を聞いてアドバイスをもったり、本人の好みものを持ってきてもらうなどしています。また日々の生活の様子を電話で伝えたり新聞等でお知らせするようにしています。 | | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | コロナの影響でできていない状況です。電話やオンラインを通して面会、ご家族や知り合いとの連絡が取れるように努めています。 | 感染対策で自粛していることが多いが、工夫して窓越し面会をおこなったり、オンライン面会も試みている。電話の取次ぎ、はがきや手紙の取次ぎもしている。今後は感染状況を見ながら、外出や外泊希望にも対応する準備をしている。 | | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 利用者それぞれの身体状況や認知症の状態を把握し、お互いに話あいや交流ができるようにテーブルや席の割り振りをしたり、施設での役割をもってもらするなど、日常生活を通して利用者同士が楽しく参加できる行事やレクリエーション、家事などを行っています。 | | | |

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|--|---|-------------------|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 | |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 契約終了後も同法人の他施設へ行った場合など状況を把握することができる。また必要に応じて退所先の施設や病院へ面会に行ったり、ご家族との連絡をとる場合もあります。 | | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 行動・言動・表情などから、今の思いを知るように日々の関わりを行っている。困難な場合は、今の様子これまでの様子などから本人の視点に立って意見を出し話し合っ、思いや意向の把握に努めています。 | 相談表や状況調査票などによりアセスメントをし、本人の意向を把握している。また、入居後に職員が気づいたことを書くシートがあり、利用者の言葉なども聞き逃さないようにしている。 | | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 利用者の生活歴、今までの暮らし方等、ご家族からの聞き取りを含め、ご本人の趣味や意向を汲み取れるよう努めています。 | | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 業務日誌・介護記録・申し送り等で職員間の情報の共有し、職員会議やユニット会議等で話し合い、日々の変化に気付けるよう努めています。 | | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 日々の申し送りや、医療連携先看護師・医師と連携し、日々の情報交換を行い利用者やご家族に意見をうかがうなどしてケースカンファレンスにて対応を話し合い介護計画に反映している。 | 把握した利用者や家族の意向は介護計画に反映するようにしている。ユニット会議で居室担当職員の意見などを聞き、話し合っって介護支援専門員が介護計画を作成している。モニタリングは2か月ごとにおこない、介護計画は最初は3か月後、その後は6か月から1年で見直している。 | | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 職員はケース記録に日々の変化を記録し必要であれば各種チェック表等を使用し状態の変化を把握する。職員に申し送り事項を引き継ぎ状態の変化に対応し、実践や介護計画の見直しに活かせるよう努めています。 | | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 利用者の状況やご家族の希望など、その時々ニーズに臨機応変に対応しています。買い物や散髪、主治医の往診や通院、訪問看護など協力関係を生かして支援しています。 | | | |

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | コロナ渦に伴い以前のように地域の行事への参加やボランティアとの交流は出来ない。施設での活動で家庭菜園や花等に触れたり世話をすることで、安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう努めている。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 月に2回主治医による定期診察があり24時間体制で利用者の病状の変化に電話等で相談指示を仰ぐ事ができる体制です。必要場合は協力医療機関への受診や情報提供などを行い連携をしています。 | 母体が医療法人で、疾病などの早期発見に努めており、家族の安心にもつながっている。訪問看護は24時間のオンコール体制である。もともとのかかりつけ医を受診する利用者もあり、基本的には家族が対応するが、難しい場合は職員が同行している。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 訪問看護ステーションと連携を図り週一回訪問と日々の医療連携をとっています。日常で捉えた本人の変化や病状を報告、相談するなどしています。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 家族と十分に話し合い安心して療養できるよう声掛けしたり入院中の状況を把握し、医師や相談員と情報交換をして退院後も適切な対応が出来るよう努めています | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 利用者、ご家族にあらかじめ対応や方針をお聞きしています。医師の判断や指示を仰ぎ、病状の変化があるときはその都度説明しご家族の意向に沿えるように対応していきます。こちらで出来る事を十分に説明しながら方針を決め、支援していきます。終末期にご家族がご本人にしてあげたいことをくみ取り看取りのケアをしていきます。 | 「医療連携体制と重度化対応・終末期ケア対応(看取り)についての指針」を作成し、家族にも説明して同意書をもらっている。昨年度も1名の看取りをおこなった。職員用に「〇〇さんの緊急時の対応について」という個別の手順書を作って全員に渡しており、職員が慌てずに行動することができるようにするなど体制を整えている。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 医療法人としてのメリットを活かし、すぐに医師や看護師と連携できるような体制をとっています。また職員においては研修や学習会で対応が出来るようにしています。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | スプリンクラー・火災報知器・自動通報装置等の消防設備を設置しており防火設備点検を行っています。また非常食の備蓄をしています。感染予防対策・感染発生時の対応に関しても対応できるよう勉強会を開き体制を整えている。 | コロナ対応に追われ、今年度は避難訓練を実施できていない。 | 今後、BCPも視野に入れ、さまざまな災害についてどのように対応するか検討し、昨年の目標達成計画に入れた備蓄の管理についても、引き続き進める事が期待される。 |

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 一人ひとりの性格やこれまでの生活環境もふまえ、言葉や口調に気をつけ、その人に合った声かけを心がけている。また、トイレ・入浴時の対応ではプライバシーや自尊心を損ねないように本人の立場に立って対応できるように取り組んでいます。 | 職員心得を配布するとともに、介護職員の接遇マナーをテーマに学習会も実施している。風呂場は着脱する場所にパーテーションを設けたり、トイレは使用時にはドアを閉めるなど、プライバシーに配慮している。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 関わっている職員が、日頃から利用者の発する言葉や表情に耳を傾け関心に向けて、その真意はどこにあるのかを考え、自己決定できるよう支援しています。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 一人ひとりの体調や気持ちに変化がある日々の中、“今”の思いを大切に、希望に沿って支援を心掛けている。(休憩・血拭き・洗濯干しやたたみ・野菜や花の世話・レクレーション等) | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 2カ月に1度訪問理容があります。髭剃り・爪切り・耳掃除などは定期的に行っています。衣服はご本人が選択していただけるよう声掛けをし、季節やその場に適した服を着用できるよう支援しています。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 毎年嗜好調査を実施し、利用者の好き嫌いを把握しています。また利用者の状況に応じてお粥や刻み食などに対応しています。行事などでは職員と一緒におやつを作っています。 | リビングからは調理する職員が見える。毎月家族に送付する便りにも写真付きでメニューを紹介している。利用者には好きな食べ物を聞いて、反映できるように努めており、時にはテイクアウトのお寿司なども楽しんでいる。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 食事時間の他にお茶の時間を設けたり、食事や水分の摂取で変化のある方については、摂取量を記録して把握しています。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 起床時にうがい、また毎食後には歯磨きや義歯の洗浄を促していきます。利用者の能力、習慣に応じて適切な援助を行っています。また月に1度、法人内の歯科医による回診があります。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 排泄チェック表をみて一日の排泄パターンを把握し、声掛け・トイレ誘導を行っています。その人の状況に応じて、リハビリパンツから布パンツを試してみたり、自立されている方には、見守りまたはさりげない声かけ等を行っています。 | 排泄チェック表をもとに、必要に応じて声掛け誘導をしており、日中は全員がトイレで排泄をしている。まずやってみることを大切にしており、布のパンツに切り替えた事例もある。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 水分摂取や運動を促したり食事メニューに配慮しています。必要な場合は医師や看護師に相談し排便コントロールしています。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | 個室風呂なので、1日に3人程度、週に2～3回を目安に介助の必要な状態や、本人の希望に応じて入浴して頂いています。 | 週2～3回を目安に入浴支援をしている。お風呂で髪を染める利用者もあり、1時間ほどかけて入浴するなど、個々に応じて支援している。入浴の時間は職員と一対一になるので、ゆっくり話をする機会にもなっている。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | ご本人の体調や生活リズムに合わせて、疲れたら休んでいただくなど、必要に応じて支援しています。安心して眠れるように事前に居室の温度・カーテンなど就寝環境を整えています。不眠時には、お話を聞き安心されるように対応しています。毎日の様子や血圧変動・排便状態等の確認を行っています。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 既往歴、内服薬の用法、副作用について理解し誤薬がないよう投薬のチェックを職員2名で利用者の名前を読み上げながら確認しています。また症状の変化を観察、確認しています。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 洗濯たみ・食器拭き・花の世話など役割を持ち、新聞やテレビを観たり、日々の習慣が継続できるよう支援。レクリエーションでは、ぬり絵や歌・ドライブ・散歩・季節の催しなど、喜び楽しみのある日々が送れるよう支援をしています。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | コロナ禍に伴い、感染予防もあり戸外に出かけることに制限がありますが、こちらでそれに代わる行事等で支援をしています。散歩は積極的に行っています。 | コロナ禍ではあるが、感染状況が改善された時期にドライブに行ったり、お寿司を食べに外出したこともある。また、散歩は日常のごなっており、下校途中の子どもたちと挨拶を交わすなどしている。今後も状況を見ながら家族との外出も支援したいとしている。 | |

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 自己管理が困難な方が多い為、ほとんどの方が所持されていません。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | ホールにいつでも使用できる電話があり、希望者がある場合は、ご本人が電話をかけたり職員が取り次ぐ等の対応をしています。利用者が書いたお手紙を預かったり、届いた手紙などは利用者に直接渡しています。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 毎日の清掃と換気、温度湿度調節を行い清潔で居心地よい環境を保つよう心掛けています。エアコンや加湿器の設置。ソファやTVの設置。トイレの表示の工夫。玄関、ホールには季節感のある装飾品や花を飾り生活の工夫をしています。 | リビングは明るく、室温や換気にも配慮して快適に過ごせるようにしている。テーブルやいすの他にソファなどもあり、思い思いにくつろぐことができる。日付を大きく掲示したり、時計を設置するなど、見当識障害にも配慮している。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 仲の良い利用者同士の座席を配慮するなどしています。ソファやベンチなどでも寛げるよう工夫しています。また、その季節に合った飾りつけを入居者と一緒に作成し季節を感じて頂いています。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 利用者、ご家族と相談し馴染みのある家具や思い入れのある品物を居室に置き、安心して落ち着いて過ごせるよう工夫しています。部屋や場所の掲示、壁への写真や作品展示などしています。 | 契約時に説明する文書に「持ち込み可能なもの」として食器類、タンス、テーブル、鏡台、机、いす、絨毯やカーペット、趣味の品などをあげており、こたつや観葉植物を置くなど、それぞれが居心地のよい居室にしている。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | ユニット会議や申し送り等で、日頃の言動から「出来る事」「分かる事」を把握し、支援方法の改善の検討・実施を行っています。自立した生活が送れるように見守り、安全に配慮しながらお手伝いをしています。 | | |

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと